



学校だより

夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来(公/開)～

令和5年4月27日

Sakonama
横浜市立左近山小学校
5月号

「立場が人を変え、環境が人を育てる」

校長 徳留 勇

春休み中、新年度準備の手伝いのために、新6年生の児童が一足先に登校しました。一人ひとりが、手を抜かず、一生懸命活躍する姿を見て、今年度の6年生に期待する思いが一層高まりました。

始業式には、各教室に学年に合わせた机や椅子が人数分きちんと並んでいるのが当たり前だと思っていた子どもたちが、実は陰で準備をしてくれていた人達がいたのだということを知るだけでなく、今年度は、最高学年として自分たちがその役割を担う番だということを改めて実感するよい機会になったと思います。

4月に入ってから、6年生は素敵な姿をたくさん見せています。不安で泣いてしまっていた1年生に優しく声をかけ、手をつないで登校してくる6年生。次の日も心配して昇降口で待っていてくれました。登校時に先生に「挨拶しようね。」と優しく声をかけたり、朝の準備の手伝いも率先して行ったりしています。また、委員会活動では学校のために頑張るぞとやる気を見せている子や委員長に立候補する子もいます。当然ですが、教室で学習に向かう態度も立派です。

「立場が人を変える」とよく言われますが、3月までは、自分のことだけで精一杯だった子どもたちが、最高学年という立場になり、学校のために、見本となり、活躍しようと明らかに意識が変わってきていることを感じ、本当にうれしくなります。

とはいえ、今の姿に安心しきってはいけません。どんなに意欲に満ちていたとしても、気持ちはいずれ新鮮さを失ってしまうからです。

だからこそ、進化し、頑張る子どもたちのために、3つのことを大切にしていこう必要があると考えます。①「子どもを信頼して、任せる。」②「先回りしてお膳立てをするのではなく、失敗しても、一緒に助けるから大丈夫という安心感を与える。」③「活躍を認め、感謝し、次への意欲を高める。」ということです。

もちろん、高過ぎるハードルは逆に意欲をそぐことになるので見極めが大切ですが、失敗を恐れて、何もさせなかったり、失敗しないよう先回りをされたりしては、かえって意欲をそぐことになります。そして何よりも称賛や感謝の気持ちを伝え、次につなげることを大切にしていきたいです。

6年生に限らず、進級したばかりの子どもたちは、みんなやる気に満ち溢れ、輝いています。そんな左近山小の子どもたちが、「常に挑戦してよかったな。また頑張りたいな。」と思える環境を学校・家庭・地域でつくり続け、子どもたちの成長と活躍を促していきたいと思っています。引き続き、応援をよろしくお願いいたします。

【留守番電話設定】平日 17時15分から翌朝7時45分までは留守番電話を設定しています。

<紙面変更のお知らせ>

これまで学校だよりで紹介していた児童の活動の様子は、学校ホームページでお知らせします。